

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	2	選択
担当教員			
前田 拓生			

授業のねらい（概要）	世界的にSociety5.0（デジタル）時代を迎えようする中、従来型の資本主義的な付加価値生産だけに重点を置く社会ではなく、生命の源たる地球の環境を持続可能に保ちつつ、多種多様な価値観をそれぞれに満足させることで、需要者と供給者がお互いに協力し合う社会・世界の構築が必要になる。国連においても2015年にSDGsが採択され、2030年までに誰一人取り残さずに目標を達成することが承認されている。金融の世界においても、それを後押しするためにESG投資及び融資が注目を集めている。 本講義では、このような状況を踏まえて、以下に掲げる日本の金融システムについての課題について、学生からの研究報告や質疑応答などを通じて議論を深めていく。 ・ESG投融資を如何に行っていくべきか ・家計の金融資産構成は如何にあるべきか ・デジタル時代における銀行等のあり方等 ・地方創生に必要となる金融手法等 なお、この授業ではDPに記載のある調査、研究のために必要となる様々なスキルを身に付け、企業や産業が直面する諸課題に対し高度な判断能力、分析能力を活用することができるよう
授業計画	第1回 本講義では、Society5.0（デジタル時代）を前にして経済社会システムが大きく変貌しようとする中で、国内外の金融システムの状況（ESG投資や融資等を含む）について分析するとともに、金融経済領域に関する個別論点において学生の関心の高い論点について、調査・研究した内容を発表し、学生全体で議論等を行うことで理解を深める。 ※第1回から第4回までは【遠隔】による授業。第8回、第11回、第14回は【課題】。 予習（時間）：各自が定めた個別論点について、毎週発表できるように調査・研究を計画的に行い、レジュメ等を作成する（120） 復習（時間）：ゼミで議論した内容を踏まえて、レポート、発表資料、プレゼンシート等を適切に修正する。（120）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP(商学研究科)を意識した科目となっている。 ・実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身につけている。 ・調査、研究のために必要となる様々なスキルを身に付け、企業や産業が直面する諸課題に対し高度な判断能力、分析能力を活用することができる。
到達目標	下記の3つを到達目標に掲げる。 ①金融経済領域の研究テーマの設定とその学修計画を立て実行できる。 ②問題把握を行いその解決能力を身につけられる。 ③コミュニケーション能力を身につけられる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	課題等を提出した場合、注意点等を赤字（又はWord提出の場合は、ハイライト）で記入の上、返却する
履修上の注意	本講義では学生の調査・研究に関する発表が中心となるので、毎週発表できるようにしておくこと。講義の時間以外にも、自主的に調査・研究を行い、論文の完成に向けての研究活動に努めること
成績評価の方法・基準	調査・研究等の発表及び授業への取り組み状況（60%）、課題提出状況（40%）で評価する。
教科書	成熟経済下における日本金融のあり方 ISBN番号：978-4864292016 著者名：前田 拓生 出版社：大学教育出版 発行年：2013年 価格：2376円
参考書・教材	【教材】講義開始後に、金融経済領域について、受講する学生の関心に基づき、適宜テキストを指示する。
備考	講義科目／実務家教員による授業 第8回 当初シラバスの「授業時の講義内容」に充当する資料と「授業時の指示」を代替する資料の配信、および作業指示をmellyなどで行い、調査結果の小レポート作成や提出は当初シラバス通りに実施する。これらの指示確認等を6、7回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。 第11回 第7回同様の実施として、指示確認を9、10回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。 第14回 第7回同様の実施として、指示確認を12、13回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。 成績評価の方法・基準 欄の「定期試験」は、本学の感染状況への対応を踏まえて「最終レポート」で代替することがある。その場合には速やかにmelly及び授業で実施方法の詳細と評価基準を受講生に告知する。
教員との連絡方法	メール（アドレスは授業内で周知